支部長就任の挨拶

三保 浩一郎

このたびALS協会広島県支部支部長を仰せつかりました三保浩一郎と申します。新任の挨拶として自己紹介いたします。病歴をお話しするのもつまらないと思い、病歴は最小限にとどめておきます。

私は昭和42年に生を受けました47才です。広島市内南区東雲で妻と中学3年生の娘と暮らしております。体に異変を感じてちょうど4年、頚椎症だろうとの事で頚椎の手術を受けて3年半が経ちました。

中学1年生で始めた柔道は何故だか気に入り、高校、大学と続け、30過ぎてからは町の道場で子供達と汗を流して日頃のストレス発散の助けとなっておりました。この道場にはALS発症するまで通い、現在も在籍しており、先生の計いで発症後に昇段させて頂きました。この柔道、私にゴリラのような体格のほかにも多くの影響を与え精神的な支えとなっております。

オートバイ、私の場合はモトクロスなのですが、大学生の時に始め、これも病気発症まで、というよりも体に違和感を感じながらもレース活動に興じてまいりました。モトクロスのオートバイも数多く所有し、自宅以外の場所にもあちこちに隠していたものです。そんな私の自家用車は当然オートバイ運搬用のトラックでした。大学生の頃はあと先考えずにガムシャラに走り、毎回転倒してはズボンを破り夜な夜な繕いごとに明け暮れておりましたが、仕事を持ってからはほんの少しだけ考えて走るようになり、怪我と繕いごとはグンと減りました。

病気発症後は自分で走ることは叶わなくなりましたが、私のレース経験に基づいて仲間とレースを主催しており多くの参加者を集めるレースイベントへ成長させており、この事は私に生きがいを与えると共に大きな自信になりました。

このレースを共に主催している友人より「広島のバイクレースの記録を集めて残してみてはどうか」との助言を得て、現在はこれに没頭しています。というのも調べれば調べるほど色んな事実が浮上してきて、凝り性の性分なのもあって研究成果を自費出版すると同時に長楽寺の交通科学館にて企画展示できないものかと躍起になっておりまして、現在の私の生活の根幹をなしている状況です。ちなみに広島では大正時代より活発にレースが行われており、日本有数の先進地だったようです。

手足が動かない私は思うように本もめくれず非常にまどろっこしくなりパソコンに全てをスキャンする事によりこれを克服しました。パソコンの話になったついでに紹介させて頂くと、視線入力パソコンの導入はこの原稿も含めて私の執筆、いやコミニュケーションのほとんどに大活躍しています。この視線入力パソコンは15インチの携帯用と24インチの据え置き型の2台を使い分けており、特に据え置き型のモノはテレビも見える上に値段も安く、同じ様な症状の方に是非使って頂きたいものです。

こんな私はALS協会への参加も妻に任せっきりでおりましたところへ支部長をとのお話、運営委員会の怖〜い先輩方の意見を聞きながらボチボチと行きますので、妻ともどもよろしくお願い致します。